

# あの日、そして今

## 被災地を記録

東日本大震災から1年前に、被災地の様子を記録に残す活動が広がっている。仮設住宅に暮らす被災者の肉声、震災直後の炊き出しの写真、がれき処理を進める映像……。後世に震災の真相を伝え、津波の記憶を風化させまいと願いを込める。

### インタビュー・写真集・映画

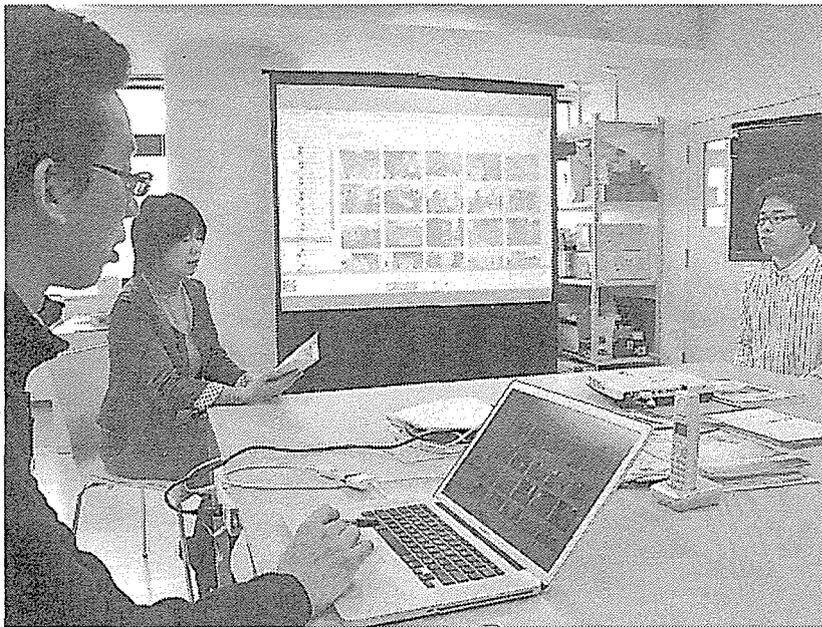
東北大の今村文彦教授のグループは今年、調査員16人による被災者へのインタビュー「みちのく・いまをつたえ隊」を始めた。

調査員の高橋公男さん(59)は23日、岩沼市の仮設住宅を訪ねた。「将来が不安」「寒さが厳しい」と不安の声が返ってきた。8日、消防士への聞き取りでは「避難誘導で沿岸に行っただが、高さ10層の防風林を

イチゴ農家や漁師らのインタビューを約100本集め、調査員が撮影した仮設住宅などの写真は約1千枚になった。被災者の悩みや被災地の変化について、ホームページ「みちのく震災録」で来月から公開する。編集を担当する柴山明寛

助教(35)は「被災者がいま抱える問題の解決にむけた自治体との連携にも役立てたい」と話す。

仙台市のNPO法人「20世紀アーカイブ仙台」は3月1日、写真集「3・11キョクのキロク 市民が撮った」を発売する。



3月の公開に向けて準備を進める東北大のグループ=仙台市青葉区

## 「記憶を風化させぬため」

た3・11大震災 記憶の記録」を発売する。

ブログなどで呼びかけ、被災者ら150人から集めた1万8千枚から1500枚を選んだ。ガソリンスタンドや炊き出しの行列、自宅の水道が開通した瞬間など震災後の暮らしが分かる。副理事長の佐藤正実さん(48)は「子や孫の世代に伝える時、一緒に見てもらえるものを作りたかった」と話す。

仙台市のせんだいメディアアテークは、来月6日から震災1年を振り返る「星空と路 3がつ11にちをわすれないために」を開く。がれき処理や被災住宅での生活などの映像30本をそれぞれ5分〜2時間程度の映画にして公開し、被災地の様子を記録する団体を紹介するパネル展もある。

学芸員の清水チナツさん(28)は「震災の記憶を風化させず、被災地のこれからを考える機会につなげたい」と話す。(古庄暢)